

飯田市立病院における院内助産の実施について

1 はじめに

飯田下伊那地域で産婦人科を標榜する医療施設は当院を含めて6施設であり、分娩が可能な施設は当院と3件の助産院のみである。出産数はやや減少傾向にあるが、糖尿病や高血圧ほか様々な合併症を持つ妊産婦が増加しており、精神疾患を合併する妊産婦も増加傾向にある。

こうした中、当院は医師7名、助産師50名体制で、県内医療機関では最多の年間約1,200件と地域内の99%の出産に対応している。

平成30年度には「産後うつ健診事業」、今年度は「産後ケア事業（宿泊型）」や、安全安心な出産環境をより高めるため健診施設と分娩施設の妊婦情報を電子的に連携する「地域周産期システム」の運用を開始するなど、地域周産期センターとしての機能を充実させてきたところであるが、今般、これまで以上に妊産婦の多様なニーズに対応し、院内の分娩機能を向上させるため、「院内助産」を実施することとした。

2 院内助産の定義

当院の助産師のうち20名が「アドバンス助産師」の認定を受けている。アドバンス助産師とは、日本看護協会が認定する資格で、周産期における専門的な助産ケアの提供、出産に関する能力が十分にあり「助産院」を開業することができるレベルであると認められた助産師である。このアドバンス助産師を中心に、病院内で助産師が自立して行う助産管理を「院内助産」と定義する。

県内では信州大学医学部附属病院を中心に取り組みが進められている。

3 院内助産の目的、期待する効果など

- ① 妊娠期から妊婦に関わった助産師が「これから母親になっていくための力」を引き出して、自然な分娩を支援すること。
- ② 助産師ならではの助産ケアを実践することで、これまで以上に快適で満足のいく出産と質の高い母子ケアを実施すること。
- ③ 当院では平成17年度に助産師外来を開設し、現在では妊婦健診の約4割を助産師が担っているが、これに加えて院内助産を実施することで、正常な妊娠経過、分娩経過の妊産婦は助産師が管理し、医師はハイリスクな妊産婦の管理に専念する体制を構築することで、医師の負担軽減と助産師が責任を持って関わることで、分娩機能を向上させること。

(参考) 準備等の経過

2016年度に長野県が補助し信州大学が開催した「信州大学 院内助産リーダー養成コース」を当院の助産師1名が受講。その後、医師も含めたプロジェクトチームを組織し開設準備を進めてきた。

4 院内助産の対象者

妊婦健康診査を必要回数受診し、妊娠初期に必要な問診及び諸検査が全て行われた結果、特にリスクがなく正常に経過することが予測された方で、妊産婦とご家族が同意された方。

※分娩リスクについては、管理チェックリストを用いて適正に評価する。

※妊産婦とご家族へは医師から説明をし、意向を尊重する。

5 安全管理

正常分娩が予測され院内助産の対象となった妊産婦においても、医師の介入が必要と助産師が判断した場合には、速やかに医師に報告し必要な指示を受ける。

また、院内助産であっても、全ての産婦に対し出産直後に産婦人科医師の診察を実施する。

6 分娩費用

分娩料金はこれまでの医師が介入する分娩と同額とする。

7 院内助産開始日 令和元年12月2日（月）

